

『EXCEED English Reading』

改訂方針—読解力の養成



同志社女子大学 飯田 毅

1. 子どもの読み方

電車の中で、ひらがなを覚えてたの子どもが、駅の名前を「と、う、じ」と一文字ずつ大きな声で読んでいます。子どもは、文字を覚えてたの頃、大人のように「東寺」と一つのまとまりとして読めません。しかしながら、しばらくたつと、文字のつながりを意味のまとまりとして捉えることができるようになり、大人のように読めるようになるのです。この読みの発達は、基本的には母語の場合と外国語の場合では同じではないでしょうか。もちろん、母語の読み方が外国語の読み方に影響を与えることもあるでしょう。ただ、外国語の場合は、母語ほど学習者が接触する量が少ないため、より効果的で適切な指導が求められることとなります。

今回EXCEED Readingはほぼ全面改訂版に近い改訂を行いました。今まで好評だった課をいくつか残しながらも、改訂版では特に学習者が断片的に持っていた読む技能を母語の場合と同じように段階的、系統的に発達させ、外国語で読む基礎的な力を養成することができるような教科書構成にしました。それでは、どんな特徴のある教科書なのか、以下4つにまとめてみました。

2. 『EXCEED Reading』改訂版の特徴

(1) 段階的、系統的な英文内容構成

改訂版では、学習者が段階的に読む力を伸ばせるように、また系統的な読み方の練習ができるように大きく全体をSTAGE 1とSTAGE 2に分けました。STAGE 1は、約150語程度の比較的短い英文と易しい語彙で構成され、各Stepに一つずつReading Skillを導入し、その確認のためのActivityが配置されています。一方、STAGE 2では、学習者が比較的長い複雑な文や少し難しい語彙の文章に対しても徐々に抵抗なく読めるよ

うにするため、さらに2つに分けられています。特に最初の1～3課までは、セクションごとにReading Skillを確認するActivityが用意され、全レッスンを通して各課の最後にまとまった練習問題を配置しました。また、教科書全体を通して数課おきに、English around Townという異文化理解にも配慮された、身近で実際に使用されている英文を読む活動が4回組み込まれています。このコーナーは、英文の目的に沿って、学習者がその状況に応じた内容をすばやく把握できるようにするためのものです。このように教科書全体を再構成することで、学習者のリーディングの発達に配慮した教科書構成にしました。

(2) Reading Skillの特定と指導

STAGE 1では、10のReading Skillを取り上げ、それぞれのActivityに提示された練習問題を解きながら身につけられるようにしました。例えば、最初のStep 1のReading Skillは「述語動詞と主語」を見分ける技能です。これは、読解において最も基本的な文構造を把握するための練習です。見開きの左側に本文、右側に内容理解のチェック問題、Reading Skillの解説、練習問題というように学習者が使いやすく、また見やすいレイアウトになっています。この他のReading Skillとして、「意味のまとまり」「代名詞」という文レベルのものから「物語の流れ」「5W1H情報」「未知語の推測」「パラグラフの構成」および「パラグラフのパターン」という談話レベルまで順に配列されています。最後に「和文と対照しながら読む」というやや特殊なものまであります。これにはもう一つのねらいがあります。日本の古典文学の英訳を分析することで、日本語の表現と英語表現の違いの面白さを意識させることです。EXCEED全体に流れることばを大切にしている編集方針がこのような所にも現れています。

(3) 背景知識の利用

英語の読解力に関してはさまざまな議論があります。しかしながら、よき読み手の能力として、語彙力、文法力、英文解釈力等の他に、背景知識の重要性が近年指摘されています。背景知識とは、英語の文章の内容に関する知識のことです。例えば、本文でも取り上げられていますが、地球温暖化に関する文章が理解できないのは、語彙力、文法力等が欠けているのではなく、温暖化そのものに関する知識がないためです。逆に、その知識があれば、多少語彙力等がなくても内容を理解できてしまう、ということもあります。これは、すぐれた第二言語の読み手が使う技能で、母語で既に獲得した知識を外国語を読む際にも活用しているのです。今回の改訂版では、この背景知識を活用することにも配慮をして編集されています。具体的には、STAGE 2の各レッスンに学習者の背景知識を活用できるような活動、Projectがあります。ここでは、本文に関するトピックを一つ取り上げて、それについての簡単な解説を施すと共に、学習者が自ら調べられるように課題を提示しました。

このProjectには、もう一つの大きなねらいがあります。それは、読んで得た知識を自分の課題として捉えさせ、更に発展させるというものです。一つ例を挙げて説明しましょう。Lesson 5では、Englishesという「英語の変種」を新しい視点から扱っています。この題材そのものが英語という言葉で現代および未来の観点から捉え、英語そのものの国際化を論じているものです。このProjectの具体的課題として、Do you think we will create the Japanese version of English in the future? というものがあります。この課題のねらいは、本文で学んだ英語の広がり将来日本で使われる英語に与える影響について考えさせることにあります。一見、難しそうな課題ですが、このような正解がない課題をこなすことが、高校生としての自分の考えを明確にし、大学等での学習にもつながり得るものです。このような課題こそEXCEEDならではのものです。

(4) 選りすぐりの題材

EXCEEDシリーズ全体に流れる編集方針に、題材中心主義があります。著者一同編集する際に、

特に題材に関しては、高校生の視点に立って、学問分野のバランスを考えて選んできました。この間、どれだけの題材原案を各自持ち寄り、そして捨てたことか。よい本課本文を生み出すためには、各自が持ち寄った材料を編集会議で徹底的に議論し、その教育的価値、その題材の持つメッセージを明確にしながら高校生にふさわしい英文に書き直す根気のいる作業が必要不可欠です。このような編集過程から本改訂版も生まれてきました。もちろん、EXCEEDをお使いいただいている先生方からのアンケートも参考にし、引き続き取り上げている題材もあります。ここでは特に新しい課としてAcross the SeaとThe Myth for the Futureを簡単に解説しましょう。

前者は、映画「チルソクの夏」を英語に書き直したものです。高校生の恋愛を日韓関係、友情、スポーツを通して描いたすぐれた題材です。多感な高校生にこのような恋愛ものを英語で読ませることは、面白さ以上に各自の人生観を深めることにもつながるでしょう。後者は、芸術家・岡本太郎の40年ぶりに発見された巨大な壁画にまつわる出来事、彼の生き方、芸術観、思想が、迫力ある『明日の神話』という作品を通して描かれています。特に工夫したのは、巨大な作品そのものの写真をこのテキストの中に組み込んだことです。そのため、作品そのものを鑑賞しながら、英文を読めるようになっていきます。このような本文と写真を組み合わせたLessonはこの課以外でも随所に取り上げられ、学習者の英文理解の一助になると同時に、文字情報と視覚情報を組み合わせた新しいテキストは現代の生徒に相応しい新しい読み方であり、テキスト自体の美的価値をも高めています。

3. おわりに

以上、簡潔に改訂版の特徴を述べました。子どもは興味を持てば、自分から進んで読み物を求め、積極的に読んでいきます。高校生の場合も基本的には同じだと思います。活字離れがとやかく言われる現在ですが、英語の教科書に対して生徒が面白さを見出せば、自ら読むようになります。先生方の適切な指導の下に生徒が自主的に読んでいく。私たちはそのような生徒を念頭に置いてこの改訂版を編集してきました。